

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第14週の発生動向

□ トピックス

・インフルエンザ（定点報告対象疾患）：インフルエンザの定点当たり報告数が8.3と前週の約0.6倍に減少し、今シーズン流行期に入って初めて流行警報レベル終息基準値（10.0）を下回りました。詳細後述。

□ 全数報告の感染症（14週までに新たに届出のあったもの）

1類感染症：報告なし。2類感染症：結核2例。3類感染症：報告なし。
4類感染症：報告なし。5類感染症：アメーバ赤痢2例、急性脳炎2例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型	症状等
2類	結核	宮崎市	20歳代	女	無症状病原体保有者	症状なし
			60歳代	女	無症状病原体保有者	症状なし
5類	アメーバ赤痢	宮崎市	30歳代	男	腸管アメーバ症	下痢、粘血便、しぶり腹、腹痛
		都城	40歳代	男	腸管アメーバ症	粘血便、しぶり腹、腹痛、大腸粘膜異常所見
	急性脳炎	宮崎市	0~4歳	女	インフルエンザウイルスA	発熱、痙攣、意識障害
			40歳代	女	インフルエンザウイルスA	発熱、意識障害、髄液細胞数の増加

□ 定点把握の対象となる5類感染症

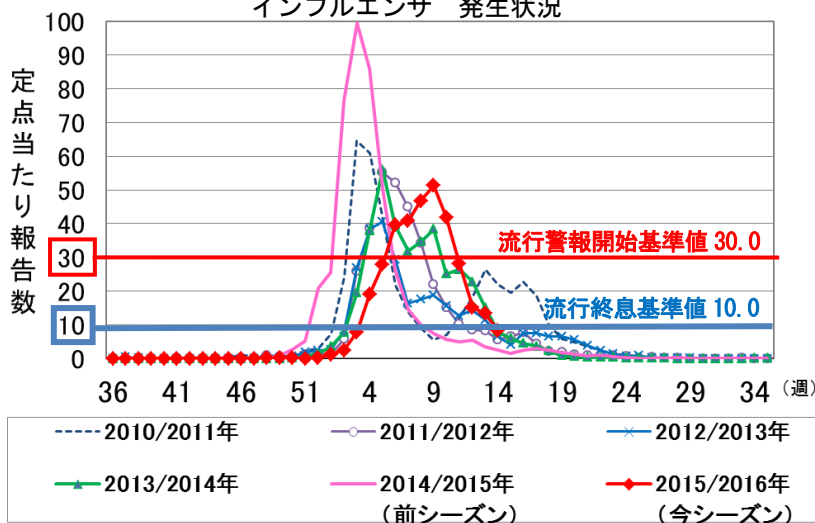
・定点医療機関からの報告総数は1,190人（定点当たり30.9）で、前週比86%と減少した。前週に比べ増加した主な疾患は咽頭結膜熱と水痘で、減少した主な疾患はインフルエンザであった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【インフルエンザ】

・報告数は490人（8.3）で、前週比63%と減少し、例年同時期の定点当たり平均値*（9.8）の約0.8倍であった。年齢群別では5歳未満が全体の31%、5-9歳が31%、10-14歳が12%、15-19歳が2%、20-59歳が19%、60歳以上が5%を占めた。詳細後述。

* 過去5年間の当該週、前週、後週（計15週）の平均値
インフルエンザ 発生状況



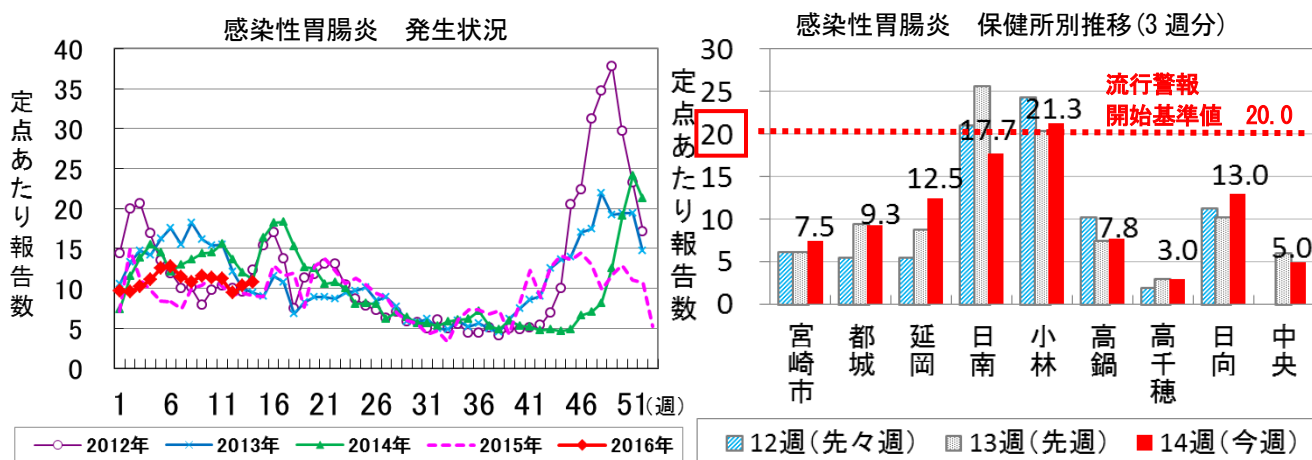
《前週との比較》



※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

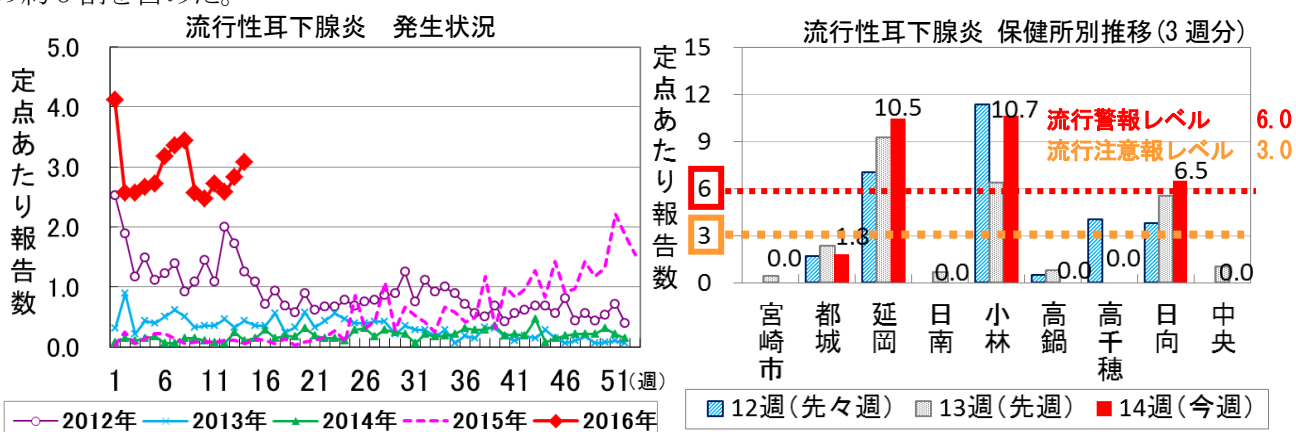
【感染性胃腸炎】

・報告数は 389 人(10.8) で、前週比 105%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値*(12.1)の約 0.9 倍であった。小林(21.3)、日南(17.7)保健所からの報告が多く、年齢別では 1~4 歳が全体の半数を占めた。



【流行性耳下腺炎】

・報告数は 111 人(3.1) で、前週比 109%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値*(0.89)の約 3.5 倍であった。小林(10.7)、延岡(10.5)、日向(6.5)保健所からの報告が多く、年齢別では 4~5 歳が全体の約 5 割を占めた。



★基幹定点からの報告★

- 無菌性髄膜炎：延岡保健所から 1 例報告があった。0~4 歳であった。
- マイコプラズマ肺炎：宮崎市保健所から 1 例報告があった。10~14 歳であった。
- 感染性胃腸炎(ロタウイルス)：宮崎市保健所から 1 例、都城保健所から 2 例、日向保健所から 1 例報告があった。0~4 歳が 4 例であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	流行性耳下腺炎(10.5)
日南	なし
小林	インフルエンザ(11.4)、感染性胃腸炎(21.3)、流行性耳下腺炎(10.7)
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	流行性耳下腺炎(6.5)
中央	インフルエンザ(13.5)、伝染性紅斑(2.0)、咽頭結膜熱(5.0)

＊流行警報レベル開始基準値＊

- ・感染性胃腸炎(20.0)
- ・流行性耳下腺炎(6.0)
- ・伝染性紅斑(2.0)
- ・咽頭結膜熱(3.0)

＊流行注意報レベル基準値＊

- ・インフルエンザ(10.0)

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 平成 28 年 4 月 11 日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
EPEC(O8:HNM)	20歳代	女	2016.2.28	—	便	2016.3.30
Salmonella Litchfield (O8(O6):l,v:1,2)	70歳代	男	2016.3.24	—	尿	2016.4.5
Salmonella Manhattan(O8(O6):d:1,5)	—	女	2016.4.1	—	便	2016.4.8

○70代後半の男性の尿から、*Salmonella* Litchfield が検出された。*Salmonella* 属菌は一般的に硫化水素 (H₂S) を産生するが、今回同定された菌株は産生していなかった。*Salmonella* 属菌の分離には H₂S 産生を指標とした培地がよく用いられるが、H₂S 非産生の *Salmonella* 属菌も存在することから、当所では、H₂S 産生を指標としない培地も組み合わせて分離している。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
ライノウイルス	0～4歳	男	2016.04.06	肺炎、37.8℃、下気道炎	咽頭ぬぐい液	2016.04.08

🇯🇵 全国 2016 年第 13 週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第 13 週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	359 例				
3類感染症	細菌性赤痢	2 例	腸管出血性大腸菌感染症	7 例		
4類感染症	E 型肝炎	8 例	A 型肝炎	8 例	重症熱性血小板減少症候群	2 例
	チクングニア熱	1 例	つつが虫病	1 例	デング熱	12 例
	マラリア	1 例	レジオネラ症	12 例		
5類感染症	アメーバ赤痢	10 例	ウイルス性肝炎	3 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	14 例
	急性脳炎	11 例	クリプトスポリジウム症	1 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6 例	後天性免疫不全症候群	13 例	ジアルジア症	4 例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	8 例	侵襲性肺炎球菌感染症	49 例	水痘（入院例）	4 例
	梅毒	55 例	播種性クリプトコックス症	3 例	破傷風	2 例
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2 例	麻しん	1 例	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1 例

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 94%と減少した。前週と比較して増加した主な疾患は、感染性胃腸炎と流行性耳下腺炎であった。減少した主な疾患はインフルエンザと A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。

インフルエンザの報告数は 55,341 人 (11.2) で前週比 81%と減少した。福井県 (23.3)、新潟県 (23.2)、高知県 (20.3) からの報告が多い。年齢群別では 5 歳未満が 20%、5-9 歳が 29%、10-14 歳が 14%、15-19 歳が 4%、20-59 歳が 25%、60 歳以上が 8%であった。

月報告対象疾患の発生動向 <2016年3月>

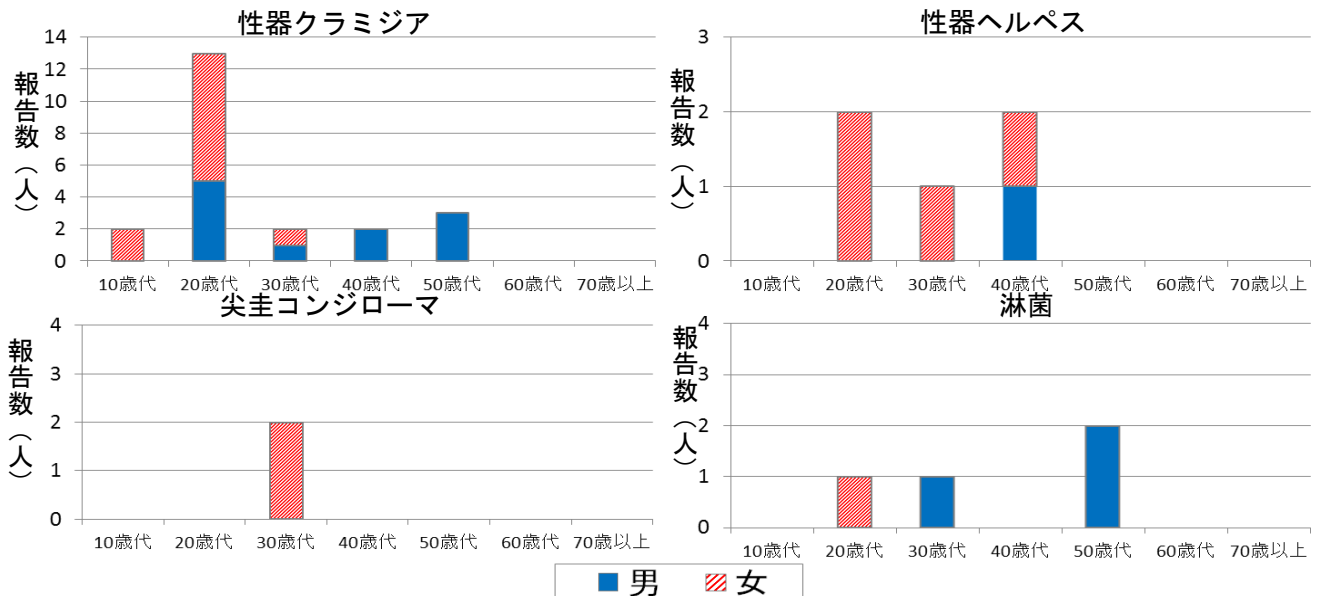
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は33人(2.5)で、前月及び昨年3月(2.5)と同程度であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数22人(1.7)で、前月及び昨年3月と同程度であった。20歳代が全体の約6割を占めた。(男性11人・女性11人)
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数5人(0.38)で、前月の1.0倍、昨年3月の約1.7倍であった。(男性1人・女性4人)
- 尖圭コンジローマ：報告数2人(0.15)で、前月及び昨年3月の約0.7倍であった。(女性2人)
- 淋菌感染症：報告数4人(0.31)で、前月の2.0倍、昨年3月の1.0倍であった。(男性3人・女性1人)



【全国】 定点医療機関総数：980

定点医療機関からの報告総数は3,848人(3.9)で、前月比で103%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症1,991人(2.0)で前月比104%、性器ヘルペスウイルス感染症748人(0.76)で前月比100%、尖圭コンジローマ454人(0.46)で前月比105%、淋菌感染症655人(0.67)で前月比102%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は25人(3.6)で前月比125%と増加した。また昨年3月(2.6)の約1.4倍であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数23人(3.3)で、前月の約1.2倍、昨年3月の約1.3倍であった。70歳以上が全体の約4割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数2人(0.29)であった。(前月及び昨年3月報告なし)
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】 定点医療機関総数：473

定点医療機関からの報告総数は1,535人(3.2)で、前月比100%と横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,382人(2.9)で前月比103%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症143人(0.30)で前月比83%、薬剤耐性緑膿菌感染症10人(0.02)で前月比100%であった。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2016年 第14週(4月4日～4月10日)

疾病名		第13週	第14週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	784	490	129	80	58	35	57	58	8	38	27
	定点あたり	13.29	8.31	8.06	8.00	8.29	7.00	11.40	9.67	4.00	6.33	13.50
RSウイルス 感染症	報告数	17	21	4	8	1		3	3		2	
	定点あたり	0.47	0.58	0.40	1.33	0.25	0.00	1.00	0.75	0.00	0.50	0.00
咽頭結膜熱	報告数	13	18	3	5	1	2	1			1	5
	定点あたり	0.36	0.50	0.30	0.83	0.25	0.67	0.33	0.00	0.00	0.25	5.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	54	65	26	10	4	5	1	1	1	11	6
	定点あたり	1.50	1.81	2.60	1.67	1.00	1.67	0.33	0.25	1.00	2.75	6.00
感染性胃腸炎	報告数	371	389	75	56	50	53	64	31	3	52	5
	定点あたり	10.31	10.81	7.50	9.33	12.50	17.67	21.33	7.75	3.00	13.00	5.00
水痘	報告数	8	13	5			2	6				
	定点あたり	0.22	0.36	0.50	0.00	0.00	0.67	2.00	0.00	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	7	6	1	1	1	1	1				1
	定点あたり	0.19	0.17	0.10	0.17	0.25	0.33	0.33	0.00	0.00	0.00	1.00
伝染性紅斑	報告数	18	16	4	6	1			2	1		2
	定点あたり	0.50	0.44	0.40	1.00	0.25	0.00	0.00	0.50	1.00	0.00	2.00
突発性発しん	報告数	24	35	12	9	3	2	3	4		1	1
	定点あたり	0.67	0.97	1.20	1.50	0.75	0.67	1.00	1.00	0.00	0.25	1.00
百日咳	報告数	1										
	定点あたり	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	1	2		1				1			
	定点あたり	0.03	0.06	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	102	111		11	42		32			26	
	定点あたり	2.83	3.08	0.00	1.83	10.50	0.00	10.67	0.00	0.00	6.50	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	27	18	13	5							
	定点あたり	4.50	3.00	4.33	2.50	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数	1	1			1						
	定点あたり	0.14	0.14	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数	1	1	1								
	定点あたり	0.14	0.14	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数	5	4	1	2						1	
	定点あたり	0.71	0.57	1.00	2.00	0.00	0.00	0.00	0.00		1.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2016年第1週～14週)

2類感染症	結核	51例(2)			
4類感染症	A型肝炎	3例	つづが虫病	4例	
	アメーバ赤痢	7例(2)	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1例	急性脳炎 7例(2)
5類感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例	後天性免疫不全症候群 2例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例	侵襲性肺炎球菌感染症	2例	梅毒 4例
	播種性クリプトコックス症	3例	破傷風	1例	

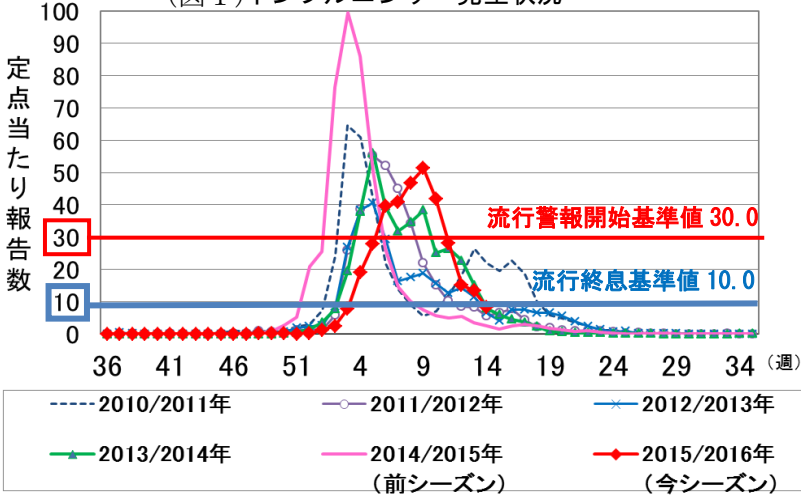
()内は今週届出分、再掲

インフルエンザ情報《県内第14週、全国第13週（再掲）》

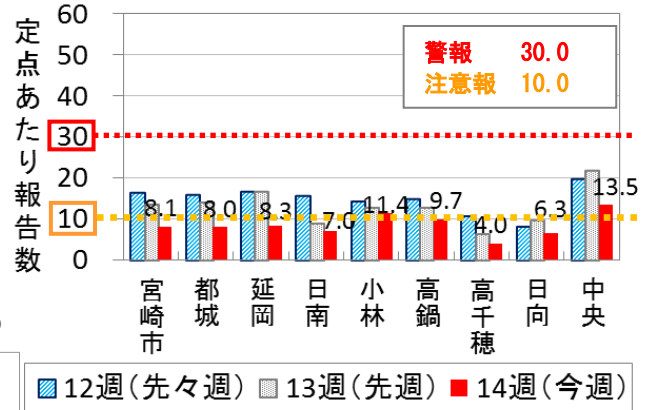
□ 県内第14週インフルエンザ発生動向

2016年4月4日～4月10日までの1週間で490人（定点あたり8.3）の報告があった。前週の約0.6倍と減少し、例年同時期の定点あたり平均値*(9.8)の約0.8倍であった（図1）。保健所別推移を図2に示す。年齢群別では5歳未満が全体の31%、5-9歳が31%、10-14歳が12%、15-19歳が2%、20-59歳が19%、60歳以上が5%を占めた。（図3）

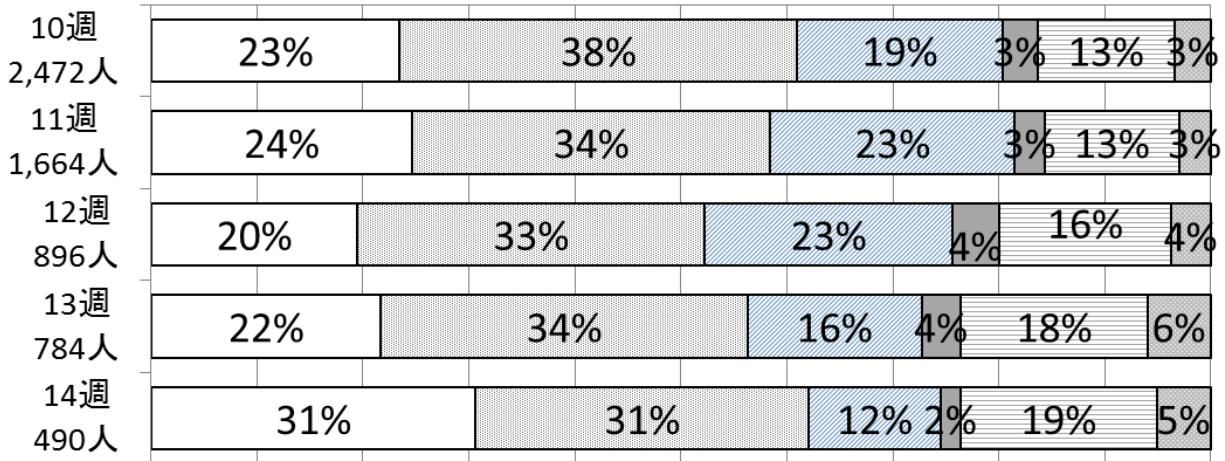
（図1）インフルエンザ発生状況



（図2）インフルエンザ保健所別推移（第12～14週）

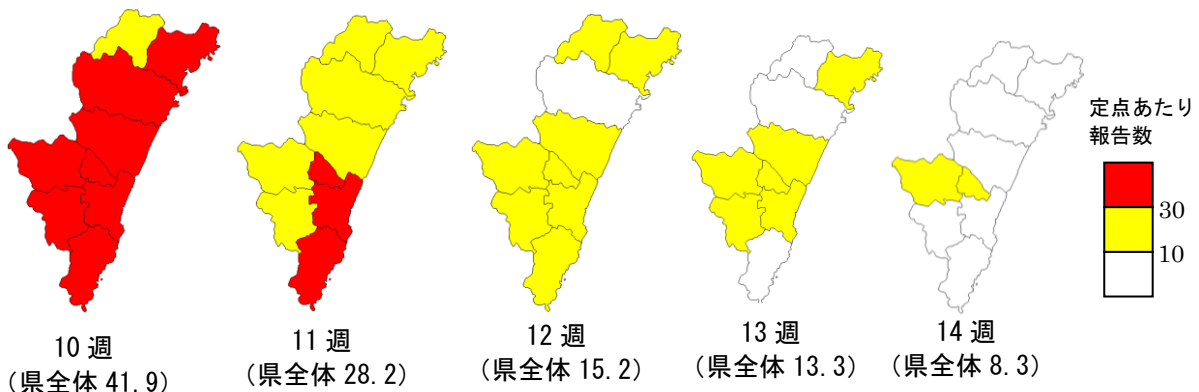


（図3）年齢群別割合の推移（第10～14週）



□ 5歳未満 □ 5～9歳 □ 10～14歳 □ 15～19歳 □ 20～59歳 □ 60歳以上

保健所別インフルエンザ警報・注意報レベル状況 第10～14週



□ 全国第13週インフルエンザ発生動向

2016年3月28日～4月3日までの1週間で55,341人(11.2)で前週比81%と減少した。福井県(23.3)、新潟県(23.2)、高知県(20.3)からの報告が多い。年齢群別では5歳未満が全体の約20%、5-9歳が29%、10-14歳が14%、15-19歳が4%、20-59歳が25%、60歳以上が8%であった。